

2013年5月15日

橋下徹大阪市長の歴史を冒とくし、女性の人権を愚弄する妄言に抗議し、

公職を辞することを求める（声明）

全国地域人権運動総連合
議長 丹波正史

「日本維新の会」共同代表の橋下徹大阪市長は5月13日の記者会見で、「(近現代史における)慰安婦制度は(軍の規律維持)に必要」と述べるとともに、米軍普天間基地の司令官と会談した際に、「(米軍兵士は)もっと風俗を活用してほしい」と述べていたことを明らかにした。14日以降も論点をずらしながら同様の妄言を発信し続けている。

これらの発言は、国民の艱難辛苦の歴史を冒とくし、女性蔑視、沖縄の基地と人権侵害の固定化・拡大を容認するものであり、人間としての墮落を示すものである。一刻も早い公職からの退任を強く求める。

橋下氏は旧日本軍「慰安婦」問題について「銃弾が雨嵐のごとく飛び交う中で命をかけて走っていくときに、精神的にも高ぶっている猛者集団をどこかで休息させてあげようと思ったら、慰安婦制度は必要なのは誰だってわかる」などと述べた。

日本政府が第二次世界大戦中に実施した従軍慰安婦制度は、軍隊が女性を強制的に連行して性行為を強制させたものであり、慰安婦とされた女性に多年にわたる苦しみを与えている。このような行為は、戦時中だからといって許されるものではない。

また橋下氏は、今月1日、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）を視察し同飛行場の司令官と面会した際に「合法的に性的なエネルギーを解消できる場所が日本にはある。真っ正面から風俗業を活用してもらわないと、海兵隊の猛者の性的なエネルギーをコントロールできない」と述べ、「日本の風俗業を活用してほしい」と促していた。

戦争という暴力の遂行のために女性の性を利用することを当然のように発言している。これは、人類の、とりわけ女性に対する冒瀆である。

これらは、安倍内閣の政治家による日本の侵略行為否定や靖国神社参拝など、右傾化の流れに乗った妄言でもある。あたかも歴史的事実に対して「中立」を装っているかのようだが、歴史的価値や人間の価値に係わる定立した観念が見られない。選挙目当てのこれまでのメディア戦略の延長にある恥ずべき行為である。言動に責任を負うべき公人にふさわしくない。公職を辞すべきである。